中学校

平成14年度

# 教育研究員研究報告書

## 外国語

東京都教職員研修センター

# 平成14年度教育研究員（外国語部会）名簿

## 第1分科会

| 区市町村名 | 学校名 | 氏名 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 新宿区 | 落合第二中学校 | 千坂浩司 | ◎ |
| 品川区 | 荏原第一中学校 | 勝又由紀 | |
| 板橋区 | 上板橋第一中学校 | 平田千栄子 | |
| 葛飾区 | 常盤中学校 | 高柳和子 | ○ |
| 東村山市 | 東村山第六中学校 | 松下真由美 | |
| 大島町 | 第二中学校 | 中村哲 | |

## 第2分科会

| 区市町村名 | 学校名 | 氏名 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 練馬区 | 練馬中学校 | 佐藤勝也 | |
| 足立区 | 第十五中学校 | 芦葉和明 | ○ |
| 江戸川区 | 松江第四中学校 | 花谷光雄 | |
| 調布市 | 第五中学校 | 小松田晴子 | ○ |
| 日野市 | 日野第四中学校 | 阿坂眞人 | |
| 多摩市 | 聖ヶ丘中学校 | 堀内雄士 | |

◎世話人　○副世話人

担当　東京都教職員研修センター指導主事　難波　浩明

研　究　主　題

**実践的コミュニケーション能力の基礎を養う指導と評価の工夫**

# 目　　次


Ⅰ　主題設定の理由と研究のねらい ---------- 2

1　主題設定の理由 ---------- 2
2　研究のねらい ---------- 2

Ⅱ　研究の構想 ---------- 2

Ⅲ　第１分科会　「表現の能力を高める指導と評価の工夫」 ---------- 3

1　副主題設定の理由と研究のねらい ---------- 3
（１）副主題設定の理由 ---------- 3
（２）研究のねらい ---------- 3
2　アンケートの結果と考察 ---------- 4
3　具体的な方策 ---------- 5
4　研究の成果と課題 ---------- １３

Ⅳ　第２分科会　「理解の能力を高める指導と評価の工夫」 ---------- １４

1　副主題設定の理由と研究のねらい ---------- １４
（１）副主題設定の理由 ---------- １４
（２）研究のねらい ---------- １４
2　アンケートの結果と考察 ---------- １５
3　具体的な方策 ---------- １７
4　研究の成果と課題 ---------- ２３

Ⅴ　まとめと今後の課題 ---------- ２４

研　究　主　題

**実践的コミュニケーション能力の基礎を養う指導と評価の工夫**

# Ⅰ　主題設定の理由と研究のねらい

## 1　主題設定の理由

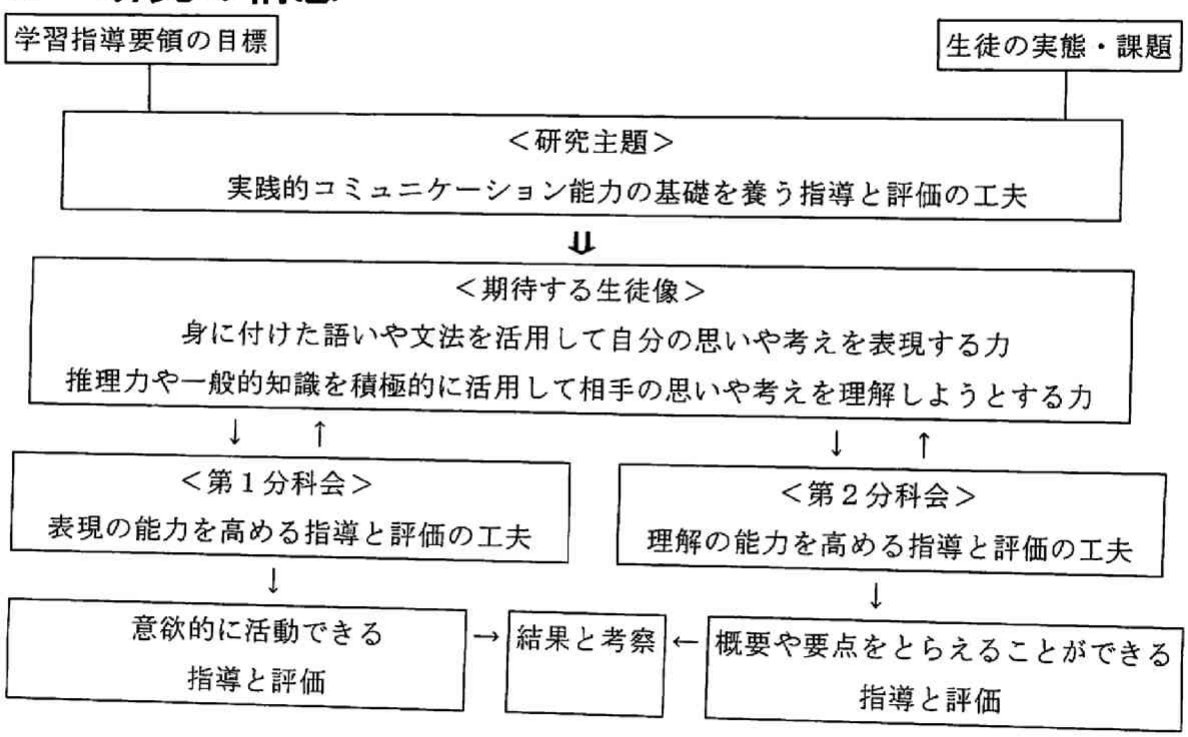
これからの国際社会に生きる日本人として、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行っていけるような資質・能力の基礎を養う観点から、国際的に共通語として広く使われている英語による実践的コミュニケーション能力の育成にかかわる指導や評価の工夫を一層充実していくことが求められている。

この「実践的コミュニケーション能力」とは、単に外国語の文法規則や語いなどについての知識をもっているというだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力のことである。中学校の段階では、この「実践的コミュニケーション能力」の基礎を日々の授業の中で養っていくことが重要であると考え、上記のテーマを設定した。

## 2　研究のねらい

本研究では、上記に定義された「実践的コミュニケーション能力」における「実際のコミュニケーションを目的として英語を運用することのできる能力」に着目し、その中でも、「身に付けた語いや文法を活用して自分の思いや考えを表現する力」や「身に付けた語いや文法を用いながら、文脈から推測する力や一般的知識を積極的に活用して、相手の思いや考えを理解しようとする力」が重要であると考えた。そこで、上記に示した「表現の能力」と「理解の能力」を高めていくため、意欲的に活動できる指導と評価の工夫及び概要や要点をとらえることができる指導と評価の工夫に焦点を当てて具体的に研究を進めることにした。

# Ⅱ　研究の構想



# Ⅲ　第１分科会

副　主　題

**表現の能力を高める指導と評価の工夫**

## １　副主題設定の理由と研究のねらい

### （１）副主題設定の理由

現行の学習指導要領においては、国際化・グローバル化の進展に対応し、外国語を使って日常的な会話や簡単な情報の交換ができるような基礎的・実践的なコミュニケーション能力の育成を一層重視した改訂を行っている。学校現場においてはその趣旨を十分に踏まえて指導にあたることが強く求められている。今までの英語教育の場においてもその基本となる「表現の能力」を養うために様々な試みがなされている。インタビューなどの情報収集活動や、教科書に掲載されている会話を用いてのペア練習など、多様なオーラルコミュニケーションの実践が行われている。教科書も会話中心の内容が多く取り入れられるように変わってきている。

しかしながら、今までの学習活動においては、身に付けた単語や文型などを実際に活用して自分の思いや考えを自由に表現することのできる機会が十分に設定されておらず、与えられた会話を練習してその表現を身に付けていく活動に力点がおかれている側面があった。その結果、英語で思ったとおりに自己表現してみたいという生徒の意欲を生かすことができず、表現の能力を十分に高めることができないという課題を生じていた。また、単語や語句、文型などの定着を継続的・段階的に図っていく活動に比べて、生き生きと自己表現ができる場や、達成感や進歩した成果を実感できるような活動が十分に設定されていないという課題も残っていた。

そこで、第１分科会では、表現の能力を高めるために、これまでに身に付けた表現を実際に活用して意欲的に自分の思いや考えを表現することができるような指導の工夫について研究を行うとともに、表現する活動に生徒が意欲的に取り組めるような評価の工夫について研究を行うことにした。

### （２）研究のねらい

第１分科会では表現の能力を向上させるためには、意欲的に活動できる指導と評価の工夫を継続的に行っていくことが重要であると考え、次の２点を研究のねらいとした。

①各単元の重要構文を含めた既製の会話をペアで練習するという基本的な活動から、生徒が自ら重要構文を取り入れた会話(スキット)を作成するという発展的な活動につなげる段階的な指導を工夫する。

②自己評価や相互評価を通して、生徒が意欲的に活動を行う工夫をするとともに、評価と一体化した具体的な支援を工夫する。

## 2　アンケートの結果と考察

研究を始めるにあたり、生徒が英語の授業に何を求めているのか、また、授業の中で行う諸活動を生徒はどのように把握しているのかを知る手がかりとしてアンケートを行った。

生徒が英語の授業に望むこととしては、「ゲームなどの楽しい活動をたくさんしたい」のほかに「基礎的な文法を身に付けたい」「高校受験に役立てたい」が多く、楽しいだけでなく、実際に役に立つ力を付けたい、という生徒の関心・意欲がうかがえる。

諸活動への生徒の意識には興味深い結果が見られる。【表・１】からわかるように、ア～オの教科書中心の活動は「楽しくはないが、役に立つ」。カのペアワークやインタビューなどの活動は「楽しい」と感じる生徒が他の活動に比べて多いが、役に立つとは思われていない。

また、【表・２】からは「テストで良い点がとれた時」にうれしいと感じる生徒が非常に多いことがわかる。教科書中心の活動を「役に立つ」と考える生徒が多いのは、それがテストの際に役立っているからであろう。

楽しい活動には生徒も積極的に取り組むし、自分の役に立つと思われることならば、その習得にも意欲を見せる。また、コツコツ練習してきたことが良い評価を得れば、満足も大きく、更に力を付けたいと考える。これらの要素が整えば、話す活動に向けて生徒の意欲も増し、表現の能力も高まっていくはずである。

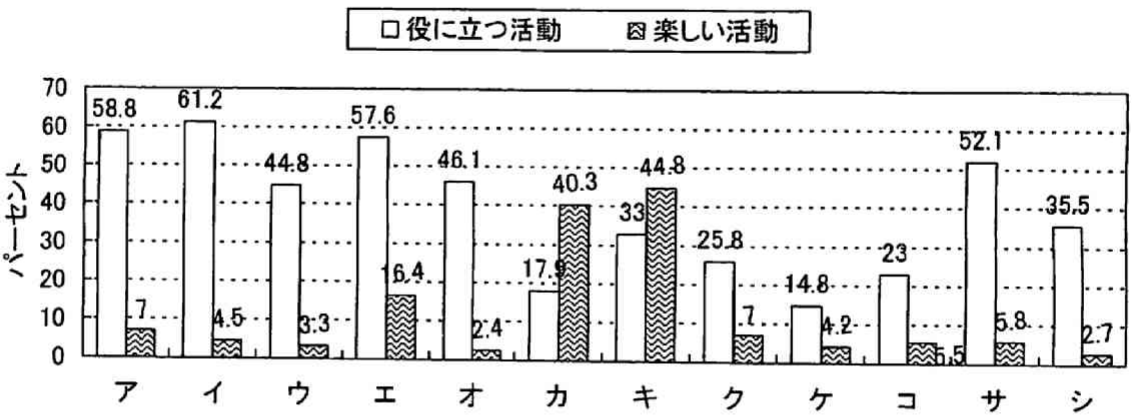
では、ペアワークやインタビューなどの活動はなぜ「役に立つ」と思えないのだろうか。その課題を次のように分析した。

(1) 目的が生徒に理解されず、単なるゲームととらえられがちである。

(2) 継続的・段階的に行われず、練習したことが定着していない。

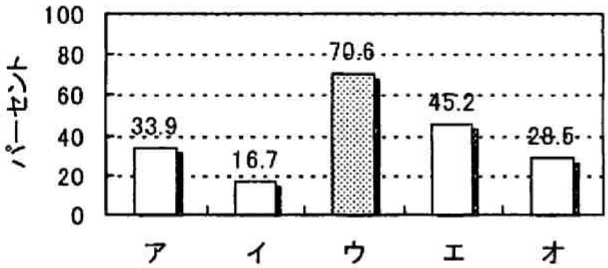
(3) 自信や意欲につながるような評価が十分なされていない。

【表・1】＜英語の授業で役に立つ活動と楽しい活動＞




ア　教科書本文の音読練習
イ　単語の発音練習
ウ　教科書の内容についての英語での質問応答
エ　CD やテープでのリスニング練習
オ　新出文法の説明と問題練習
カ　ペアワークやインタビューゲームなど
キ　AET の先生との会話
ク　スピーチの発表
ケ　英文日記や英語レポート発表
コ　教科書やスキットの暗誦
サ　単語や書き取りの小テスト
シ　ワークブックでの復習

【表・2】<英語の授業で「うれしい」と思う時>




ア　先生にほめられた時
イ　友達にほめられた時
ウ　テストで良い点がとれた時
エ　AETの先生に英語が通じた時
オ　ゲームで勝った時

また、その外に行ったアンケートの結果から、「話すこと」の表現活動に積極的に取り組めない生徒が三割以上いることもわかった。その理由としては「間違っていると恥ずかしいから」「どう話してよいかわからないから」が半数以上を占めていた。

以上のことから、簡単な練習を数多く繰り返しながら徐々に使える表現を増やしていくこと、進歩や課題を実感できるような評価によって生徒に自信や意欲をもたせていくことなど、継続的な指導と評価が重要であることが再確認され、その工夫を本研究の課題とした。

## 3　具体的な方策

前述した３つの課題の改善に向けて、次のような工夫を試みた。

(1) ペアワークやインタビューゲームを新出文型や表現のドリルと位置付け、その練習の成果が後に行う自己表現活動に役立つことを生徒に十分理解させる。また、実際のコミュニケーションには、声の大きさや話す速さ、表情なども大切であることから、それらの点について継続して記録できる「自己評価カード」を作成し、自分の進歩や課題を常に意識できるようにする（「自己評価カード」については後述する）。

(2) まとまった回数の活動を行った後、それらを総合したスキット・テストやスピーキング・テストを行い、一つ一つの活動に関連性をもたせる。スキットはそれまでにペアワークなどで練習した文型や表現を活用させて生徒たちに自作させる。それまでのペアワークやインタビューゲームは単なるゲームではなく、繰り返し取り組んでいくことによって自分たちの考えたことが英語で話せるようになる、という練習過程として位置付ける。また、学年が進むにしたがってスピーキング・テストも取り入れ、あらかじめ決まったスキットではなく、実践的なコミュニケーション活動もできるという自信をもたせていく。

(3) 自己評価に加えて、相互評価や教師による評価の方法を工夫する。各評価の項目には関連性をもたせ、「練習の成果が生かせた」と生徒が実感できるように留意する。また、評価の項目を事前に示すとともに、結果をできるだけ早く生徒に知らせることによって、生徒たちが自己の課題を明確にし次への目標を意識して取り組むことができるようにする。

『ペアワーク、インタビューゲーム→スキット・テスト、スピーキング・テスト→評価』というサイクルを円滑に進めていくことが、徐々に「話すこと」の力を高めていくという考えに基づき実践研究を進めた。

**【評価の工夫】**

(1) ペアワークにおける自己評価カードの活用

この評価カードを生徒は毎回使い、ペアワークでは常に３つの項目を意識して活動できるようにした。項目１については、日本語を使わず、英語で話してみようとする意欲と態度について評価した。項目２については、相手に聞こえるような声の大きさで話す、相手の目を見て話す､適切な会話のスピードで話すなどがどの程度できたかについて評価した。項目３については自分自身で考えた１、２以外の目標について記入し、それがどの程度できたかを評価した。この表は生徒各自が保管し、常に自分の進歩や課題を確認することができるようにした。教師は３～５回程度ペアワークが終わったら、次回の活動の励みになるコメントを書き込み生徒たちに返却した。それぞれの最高は３ポイントとして、☆印を塗りつぶすことによって、各項目を意識して取り組むことができるように工夫した。

〔自己評価カードの例〕＊全学年共通して用いることにより関連性をもたせる。

| 回数 / 項目 | Excellent → 3 points<br>Fair → 2 points<br>Poor → 1 point | 1<br>/ | 2<br>/ | 3<br>/ | 4<br>/ | 5<br>/ | Total | Comments |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 英語で話そうとした | ☆☆☆ | ☆☆☆ | ☆☆☆ | ☆☆☆ | ☆☆☆ | | |
| 2 | 相手に伝えようとした | ☆☆☆ | ☆☆☆ | ☆☆☆ | ☆☆☆ | ☆☆☆ | | |
| 3 | 今回目標としたこと<br>ｵﾘｼﾞﾅﾙ表現・ｼﾞｪｽﾁｬｰなど | ☆☆☆<br>「　」 | ☆☆☆<br>「　」 | ☆☆☆<br>「　」 | ☆☆☆<br>「　」 | ☆☆☆<br>「　」 | | |
| | Total | / 9 | / 9 | / 9 | / 9 | / 9 | /45 | |

(2) スキット・テスト評価表の活用　＊教師による評価

スキット・テストの評価の項目として、①適切な音量で話している②正しい英語で話している③会話の流れがスムーズである④ジェスチャーや小道具などを使い、表現方法を工夫している、の４つを共通の項目とした。この項目は自己評価カードの項目を具体的に生かしたもので、生徒たちにペアワークにおける学習の成果がスキット・テストに生かされることを意識させるようにした。具体的には、自己評価カードの「英語で話そうとした」、「相手に伝えようとした」の項目を教師側の①②③の項目で表し、「今回目標としたこと」を具体的に表すものを④のボーナスポイントの項目で表すようにした。

＊スキット・テスト評価表の具体例は各学年の実践事例を参照

(3) スキット・テスト相互評価表の活用

生徒による相互評価は、①適切な音量で話している②英語が自然で感情がこもっている③暗記して話している④内容が充実している、の４つを共通の項目とし、ペアワークにおける自己評価表やスキット・テストにおける教師の評価と関連性をもたせるように配慮した。

＊スキット・テスト相互評価表の具体例は、８ページを参照

## 【スキット・テストと評価（1年生）の実践事例】

### ＜指導のねらい＞

教師が示した場面設定の中で、自らペアワークで練習した表現を用いたスキットを書かせ、発表させる。

### ＜学習過程＞　＊所要時間・・・準備：1時間、テスト：1時間

(1) ペアワークで練習した表現を復習する。
(2) 自分ができなかった項目を自己評価カードで確認し、その項目を意識する。
(3) 与えられた場面に即したスキットをペアワークで練習した表現を使って書く。
(4) 教師による原稿チェック後、練習時間を設ける。
(5) テストを行う。（テスト時にビデオ撮影をする）
(6) 生徒に評価を伝える。

〔生徒が書いたスキットの原稿例〕

（スキット場面設定）

●登場人物：A・・・○○中学校の1年生
　　B・・・○○中学に転校してきた転校生

●場面設定：廊下で転校生に出会う。転校生は校舎内のある教室をさがしている。

●スキットの条件

① Opening（あいさつ）　③転校生がある教室の場所を尋ねる or 答える
② 自己紹介　④Closing(最後の一言)

（生徒原稿）

A：Hello！ Nice to meet you.
B：Nice to meet you, too.
A：What's your name?
B：My name is Tomoko. And you?
A：I'm Sayaka. I like basketball.
B：Oh！ Me too.
　Where is the teachers' room?
A：Pardon?
B：Where is the teachers' room?
A：It's next to the classroom 1-3.
B：Thanks！
A：Let's play basketball someday.
B：OK! See you tomorrow.
A：Bye.

### ＜指導上の留意点＞

(1) スキット原稿作成前に、評価の項目を明確に生徒に伝えておく。
(2) スキット原稿作成時に、十分な時間をとる。
(3) スキット原稿はAET及びJTEがチェックし生徒が自信をもって発表できるようにする。
(4) スキットの練習時間を確保する。
(5) スキット・テスト時、生徒同士の相互評価も行い、次回への参考にさせる。
(6) 評価はできるだけ早く生徒に知らせ、次回への参考にさせる。

## <評価・具体的な手だて>

〔スキット・テスト評価表の例〕＊教師による評価

| スキット・テスト評価表 | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名（　　） | | JTE | AET |
| 1 | あいさつ | 1・0 | 1・0 |
| 2 | 自己紹介 | 1・0 | 1・0 |
| 3 | ある教室の場所を聞く or 答える | 2・0 | 2・0 |
| 4 | 最後の一言 | 1・0 | 1・0 |
| 小計 | | /5 | /5 |
| 1 | 適切な音量で話している | 3・2・1 | 3・2・1 |
| 2 | 正しい英語で話している | 3・2・1 | 3・2・1 |
| 3 | 会話の流れがスムーズである | 3・2・1 | 3・2・1 |
| 4 | ボーナスポイント（工夫） | 1・0 | 1・0 |
| 小計 | | /10 | /10 |
| 合計 | | /15 | /15 |
| Comments: | | | |

(1) 評価の項目にスキットの条件を満たしているかどうかの条件を加算して、スキット・テストの評価とする。
（例）Opening（あいさつ）
→できていれば１点
→できていなければ０点

(2) 個人評価なので、相手ができていなくても、得点に影響はない。

(3) AET の評価も加え「表現の能力」として評価する。

(4) 評価表にコメントを書くことにより具体的にどこを直せば更に良くなるかを生徒に示す。

(5) テスト時に撮影したビデオで評価の確認を行う。

〔スキット・テスト相互評価表の例〕＊生徒による評価

| 相　互　評　価　表 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ペアの名前（　　&　　） | | | | | |
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 適切な音量で話している | | | | | |
| 英語が自然で感情がこもっている | | | | | |
| 暗記して話している | | | | | |
| 内容が充実している | | | | | |
| 5→大変良い　4→良い　3→ふつう　2→もう一歩　1→頑張れ | | | | | |
| Comments: | | | | | |

(1) 各項目についてペアごとに評価し、５から１までのあてはまる評価の数字の所に○をつける。

(2) できるだけ良い点についてコメントを書くようにする。

(3) 他の生徒の発表を集中して聞き、良い点は次回に生かすようにする。

(4) 教師は相互評価の結果をまとめ、各ペアにできるだけ早く知らせる。

(5) ペアに結果を伝えることによって、次回への意欲につなげる。

(6) 相互評価を行うことにより、客観的に判断し、良かった点や課題を明確にできるようにさせる。

## 【スキット・テストと評価（２年生）の実践事例】

### ＜指導のねらい＞

(1) ペアワークで練習した表現や既習事項を使って、スキットを作成し、発表する。

(2) 生徒が場面を設定することによって「実践的コミュニケーション活動」につなげる。

### ＜学習過程＞　＊所要時間・・・準備：1時間、テスト：1時間

(1) ペアワークで練習した表現を使った場面設定を考える。

(2) 今回は、be going to- ・ will（未来表現）、must、 when (～する時)を使用する。

(3) AETやJTEに発表前に原稿チェックを受け、練習時間を設定する。

(4) スキット・テストを別室でビデオに収録しながら行い、 次の授業で相互評価を行う。

〔生徒スキット（遠足の前日）の例〕

| | |
|---|---|
| A: Hello. | B: Hi. What are you going to do tomorrow? |
| A: I'm going to visit Asakusa and Ueno. | B: Oh, I see. |
| A: How about you? | B: I will go to the museum. |
| A: What kind of museum will you go to? I know that we must pay the admission fee when we visit a museum. | B: I will go to the National Science Museum. |
| A: Are you looking forward to going there? | B: Yes, I am. Because there are many displays of dinosaurs. |
| A: Have a good day. | B: Thank you. |

### ＜指導上の留意点＞

(1) 期日までに原稿を推敲させることによって、実践的な内容のスキット作りを目指す。

(2) 他クラスの優秀なスキットを教材として役立てる。

### ＜評価・具体的な手だて＞

〔スキット・テスト評価表の例〕＊教師による評価

| 評価項目 | | | Points | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 課題・内容 | Opening & Closing | /2 | (発表前評価) |
| | | be going to-,will(未来表現)<br>must , when(～する時) | A B C | / 5 |
| 2 | 適切な音量で話している | | A B C | /12 |
| 3 | 正しい英語で話している | | A B C | |
| 4 | 会話の流れがスムーズである | | A B C | |
| 5 | 工夫(小道具・ジェスチャー・感情表現) | | /3 | |
| A: Very Good!(3) B: Fair (2) C: Poor(1) | | | | /17 |
| Comments: | | | | |

(1) 発表前評価を設定し、スキット作りの意欲を高める。

(2) コメントで良かった点や努力点を具体的に明記し、次のスピーキングテストに生かす。

(3) 下記の基準によって、総合評価を行う。

A(100-80%)←17-14 ポイント

B( 79-50%)←13- 9 ポイント

C( 49- 0%)← 8- 0 ポイント

## 【スピーキング・テストと評価（２年生）の実践事例】

### ＜指導のねらい＞

(1) ペアワークやスキットの練習の成果を、実践的なコミュニケーションの場で生かす。

(2) 与えられた場面設定の中で、対話を通して課題に取り組む。

### ＜学習過程＞　＊所要時間・・・テスト：1時間

(1) 週末の予定が書かれたSituation Cardと単語リストを受け取る。

(2) 生徒ペアによるスピーキング・テストの説明を受け、既習表現を復習する。

(3) テストでは、配布されたカードを３０秒間黙読する。

(4) 予定についての質問を２つ以上するとともに相手の質問に答える。

(5) ペアで一緒に行う週末の予定を立てる。

(6) AET又はJTEは生徒の対話を聞いて、それぞれの生徒を評価する。

(7) JTEはテストの様子をビデオに収録する。

〔Situation Cardの例〕＊空欄は、ペアで一緒に行う予定を立てる自由な時間とする。

**Situation Card : Student A**

**二人が一緒に行う予定を立てよう**

課題：①あいさつ②質問(2)③答え(2)④予定

（予定を確認できたらボーナス点☆）

**カードの黙読30秒、会話時間は２分です。**

| Time | Things you are going to do | |
|---|---|---|
| | Saturday | Sunday |
| 9:00 | soccer | Soccer |
| 10:00 | game | |
| 11:00 | | shopping |
| 12:00 | lunch | |
| 1:00 | movie | |
| 2:00 | | |
| 3:00 | | |
| 4:00 | homework | |
| 5:00 | | |

**Situation Card : Student B**

**二人が一緒に行う予定を立てよう**

課題：①あいさつ②質問(2)③答え(2)④予定

（予定を確認できたらボーナス点☆）

**カードの黙読30秒、会話時間は２分です。**

| Time | Things you are going to do | |
|---|---|---|
| | Saturday | Sunday |
| 9:00 | | tennis |
| 10:00 | | |
| 11:00 | | |
| 12:00 | lunch | |
| 1:00 | movie | aunt's house |
| 2:00 | | |
| 3:00 | | |
| 4:00 | homework | |
| 5:00 | | |

〔単語リストの例〕

| | List of things to do on the weekend | | | テストで使われる単語リスト | |
|---|---|---|---|---|---|
| | English | Japanese | | English: | Japanese |
| 1 | (　　) a museum | | 9 | (　　) homework | |
| 2 | (　　) shopping | | 10 | (　　) cake | |
| 3 | (　　) a (soccer) game | | 11 | (　　) TV | |
| 4 | (　　) a zoo | | 12 | (　　) movie | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 | (　　) (Chinese) food | | 13 | (　　) library | |
| 6 | (　　) pictures | | 14 | (　　)(aunt)'s house | |
| 7 | (　　) hiking | | 15 | (　　) volunteer work | |
| 8 | (　　) around | | | | |

| | Useful Expressions　　誘うとき・断るときの表現 | |
|---|---|---|
| 1 | What are you going to do on this weekend? | |
| 2 | Let's play basketball. | |
| 3 | Do you want to play basketball? | |
| 4 | How about Sunday? | |
| 5 | I'm sorry. I have other plans. | |
| 6 | I want to do, but I can't. I'm busy. | |

**＜指導上の留意点＞**

(1) 1時間の授業で終了できるテストとして設定するため生徒ペアによる対話形式とする。

(2) 積極的にテストに取り組ませるために、会話で使用する表現を復習させる。

(3) "Situation Card" に使用される単語のリストを作成し、提示する。

**＜評価・具体的な手だて＞**

(1) わかりやすい評価にするために、できた場合は○、できなかった場合は×を記入する。

(2) 項目２～５ については、スキット・テストに準じる形式とする。

(3) アイコンタクト・ジェスチャー・感情表現などの工夫や予定の確認ができたら、ボーナス点とする。

〔スピーキング・テスト評価表の例〕＊教師による評価

| Class. | No. | Name. | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 評　価　項　目 | | | | | Points |
| 1 | 課題 | Opening | | 1 .Asked about the plan | | |
| | (○×) | Closing | | 2. Asked about the plan | | |
| | ☆bonus | Made the plan | | 1. Answered the question | | |
| | | Checked the plan | ☆ | 2. Answered the question | | /8 |
| 2 | 適切な音量で話している (Clearness) | | | A　B　C | | |
| 3 | 正しい英語で話している (Accuracy) | | | A　B　C | | |
| 4 | 会話の流れがスムーズである　(Fluency) | | | A　B　C | | |
| 5 | 工夫(アイコンタクト・ジェスチャー・感情表現など) | | | /3 | | /12 |
| A: Very Good!(3) B: Fair (2) C: Poor(1)<br>**TOTAL: A : 20-15　B: 14-9　C: 8-0** | | | | **TOTAL** | | /20 |
| Comments: | | | | | | |

## 【スピーキング・テストと評価（３年生）の実践事例】

### ＜指導のねらい＞

(1) ペアワークやスキット・テストの成果を生かし、場面設定から台詞まで即興的に会話を作って発表できるようにする。

(2) スキット・テストというあらかじめ準備した会話の発表の段階から一歩進めて、より実践的で創造的な活動を行うことにより、生きた英語を発表できる場とする。

(3) 受け身を用いた文を実践的な場面で使えるようにする。

### ＜学習過程＞　＊所要時間・・・テスト：1時間

(1) ペアを組み、日本人役と外国人役のどちらをやるかを決める。

(2)「Show and Tell」という形で、日本人役の人は与えられた歴史上の人物や日本独特の物を受け身を用いて英語で紹介する。

(3) 1分間で会話の流れを作る。その際、会話に使わなければいけないキーワードを生徒に伝える。

(4) 外国人の役の生徒も相手が言った受け身を用いた説明文を確認するという意味でリピートする。また、疑問詞を用いてその内容について質問する。

(5) AET と JTE は発表をビデオに収録しながら項目に照らし合わせて評価する。

(6) 発表をしていない他の生徒もどちらか一方の生徒を評価し発表終了後評価カードを渡す。

### ＜指導上の留意点＞

(1) キーワードや疑問詞などは紙に書いて黒板に貼るなど、生徒が発話しやすくなるような環境を整える。

(2) 説明する人物や物は、なるべく生徒が既習の英語で表現できるような簡単なものを選ぶ。

(3) 会話の内容があまり短くならないようにするために、各自が発話すべき回数の目安は、5回とする。

(4) 日本人役を行った生徒は、次回外国人役を行う。

(5) 評価の項目に照らし合わせながら AET と JTE によるデモンストレーションを行い、「良い発表」の手本を示す。

### ＜評価・具体的な手だて＞

〔スピーキング・テスト評価表の例〕＊教師による評価

| 評価項目 | 点数 | 評価項目 | 点数 |
|---|---|---|---|
| Opening/Closing | 3・2・1 | 適切な音量で話している | 3・2・1 |
| Key Word | 3・2・1 | 正しい英語で話している | 3・2・1 |
| 文法（受け身） | 3・2・1 | 会話の流れがスムーズである | 3・2・1 |
| 発話の量 | 3・2・1 | 工夫（ジェスチャーや感情表現） | 3・2・1 |
| 合計点 | /12 | 合計点 | /12 |
| Comments: | | Total /24 | |

(1) 評価の項目をあらかじめ生徒に伝えておく。

(2) 改善すべき点に加え、素晴らしかった点も必ず示し生徒の意欲を高める評価を目指す。

(3) 評価したものはできるだけ早く生徒にフィードバックし、次回の発表に向けて課題や工夫すべき点を確認させる。

## 4　研究の成果と課題

第１分科会では、表現の能力を高める指導と評価の工夫について研究してきた。その結果、次のような成果と課題が確認された。

### （１）研究の成果

①ペアワークやスキット原稿作りなどの活動を通して、協力し合い、教え合う姿が見られた。また、取り組み後、再度アンケートを行ったところ、「ペアワークやインタビューゲームは役に立つ」という実感をもつ生徒の割合が増えた。役に立つという実感をもてるようになったことで、生徒の意欲も高まり、表現の能力を向上させることができた。

②練習してきたペアワークを総合したスキット・テストやスピーキング・テストを行ったことにより、自分たちの考えたことを英語で表現できる体験の場が与えられた。その結果、「自分にも実践的なコミュニケーション活動ができるのだ」と自信をもつ生徒が増えた。

③スキット・テストやスピーキング・テストを行うことにより、ペアワークなどの活動が、適切に評価されることがわかり、取り組む意欲も高まった。

④生徒による自己評価、相互評価及び教師による評価によって、活動ごとに評価のフィードバックを行ったことにより、次の「話す」活動につなげることができた。生徒は自分の課題を知り次の目標をもつことができたことで、意欲的に取り組むことができた。

### （２）研究の課題

①テスト後、教師からの評価を、できるだけ早く生徒に知らせるように努力した。それによって生徒は自分の評価を知り、課題を知ることができた。しかし、評価でＡを得られなかった生徒に対して効果的な手立てを示すことが十分にできなかった。ペアでの学習や教師の指導を取り入れた練習を一層工夫していく必要がある。

②スキット・テストの評価をする際に、ペアの組み方にも考慮する必要がある。たとえば、ペアを組んだ相手により十分に自分の力が発揮されなかった場合など、評価の面でどう配慮するかが重要である。

③スキット・テストでは、発表前にAETやJTEによるスキット原稿のチェックを行ったが、その原稿の評価は行わなかった。今後は、スキット原稿も評価し、励みとなるようなコメントを書き込むことによって、「話すこと」だけでなく、「書くこと」への意欲を高め、表現の能力をバランスよく総合的に高めていく必要がある。

④本分科会では、「表現の能力」の中で「話すこと」の能力を高めることに焦点を当てて取り組んできたため、「書くこと」の能力を高める具体的な方策については研究を深めることができなかった。「書くこと」の能力を高めるためにどういう指導と評価の工夫が考えられるのかを今後検討していく必要がある。

# Ⅳ　第２分科会

副　主　題

**理解の能力を高める指導と評価の工夫**

## １　副主題設定の理由と研究のねらい

### （１）副主題設定の理由

２１世紀を迎え、国際化、グローバル化が急速に進む中、英語を使って外国の人々と積極的にコミュニケーションを図り、自分の思っていることをうまく伝えることができるようになりたいと思っている生徒は多い。日々の授業においても、ペアでの言語活動やAETとの会話などに意欲的に参加する生徒の姿を見かけることができる。しかし、ややもすれば、スピーキングは生徒が望む活動ゆえに力点が置かれすぎ、リスニングやリーディングを通して「理解の能力」を高めることが十分行われていない面がある。

コミュニケーションとは、相手の言っていることを理解した上で、自分の考えなどを表現することにより成り立っているものである。したがって、実践的コミュニケーション能力を育成する上では、スピーキングやライティングなどにおける「表現の能力」を高めるだけでなく、リスニングやリーディングにおける「理解の能力」を高め、バランスよく指導していくことが不可欠である。

われわれを取り巻く社会に目を向けたとき、最近ではインターネットなどの発達により、世界中の知りたい情報が即座に、かつ大量に得られる時代となった。また、電車の中などで英語による会話を耳にする機会が増えたり、英語によるニュースやインタビューなど、生の英語に直接触れる機会も増加してきた。このような社会においては、自分の知らない語いや文法事項にこだわりすぎたり、一文一文の解釈にとらわれすぎることなく、多くの情報から自分が必要とする情報を取捨選択したり、話されていることや書かれていることの概要をとらえて読んだり聞いたりすることが求められている。

そこで、第２分科会では、「理解の能力」を高めるために、身に付けた語いや文法を用いながら、文脈から推測する力や一般的な知識を積極的に活用して、相手の思いや考えを理解しようすることができるような指導の工夫について研究を行った。あわせて、理解する活動に生徒が意欲的に取り組めるような評価の工夫や理解が十分でない生徒に対する具体的な手だての在り方について研究を行うことにした。

### （２）研究のねらい

① キーワードを意識させた段階的な指導を工夫する。

② 写真や絵などを用いて、意欲を高める指導を工夫する。

③ 継続的に概要や要点をとらえさせる工夫をする。

④ 意欲的に取り組むことができる評価と到達度に応じた学習の手だてを工夫する。

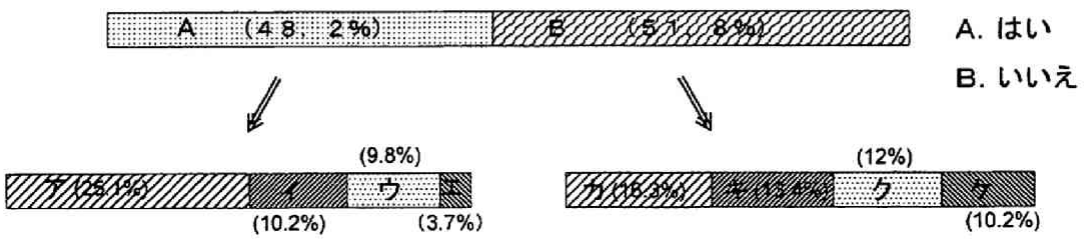
## 2　アンケートの結果と考察

研究を進めるにあたり、まず「読むこと」と「聞くこと」の活動において、日頃生徒がどのようなことに満足感を得てどのようなことに困難を感じているのかを把握しておくことが重要であると考え、実態調査アンケートを行った。

「読むこと」「聞くこと」の活動において、「楽しい」と感じている生徒はいずれも約半数にとどまった。楽しいと感じている理由として一番多かったのは、どちらも「英語を使っている感じがする」であった。また、「聞くこと」の活動では第２の理由として、英語の音やリズムに心地よさを感じていると答えた生徒が多かった。

反対に、「楽しくない」と感じている生徒の理由として多かったのは、「読むこと」の活動では、多い順に「上手に読めない」「読み方がわからない」「意味や内容がわからない」で、「聞くこと」の活動では、多い順に「発音が聞き取れない」「意味や内容がわからない」「興味がもてない」であった。

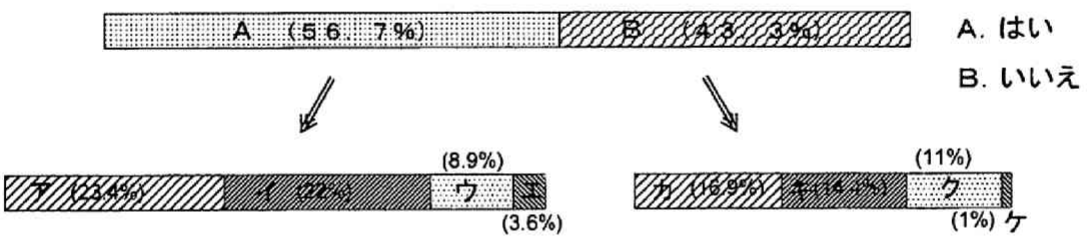
**【図1】英語を「読むこと」は楽しいですか。またその理由は何ですか。**




ア. 英語を使っている感じ(雰囲気)がする
イ. スラスラ読める
ウ. 内容がわかる
エ. その他

カ. 上手に読めない
キ. 読み方がわからない
ク. 意味や内容がわからない
ケ. 声に出して読むのは恥ずかしい

**【図2】英語を「聞くこと」は楽しいですか。またその理由は何ですか。**

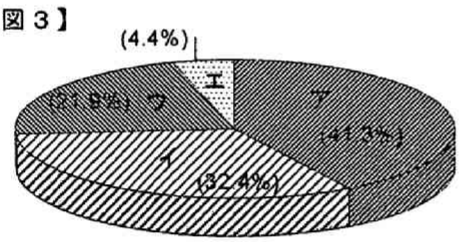



ア. 英語を使っている感じ(雰囲気)がする
イ. 英語の音やリズムが心地よい
ウ. 内容がわかる
エ. その他

カ. 発音が聞き取れない
キ. 意味や内容がわからない
ク. 興味がもてない
ケ. その他

そこで、楽しくない理由として共通に挙げられている「意味や内容がわからない」という点に着目し、「内容を理解する」ことについて調査した結果、「読んでその内容を理解する」ことにおいては約６割、「聞いてその内容を理解する」ことにおいては約７割の生徒が「難しい」と感じていることがわかった。それぞれどのような点に困難を感じているかは【図３】及び【図4】に示した通りである。

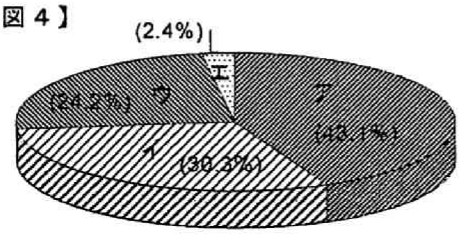
【図３】




英語を読むときに困ることは何ですか

ア. 単語の意味がわからない。
イ. 単語の読み方がわからない。
ウ. 単語はわかるが、文になるとわからない。
エ. その他

【図４】




英語を聞くときに困ることは何ですか

ア. 英語のスピードについていけない。
イ. 単語の発音が聞き取れない。
ウ. 単語の意味がわからない。
エ. その他

上記のアンケートの結果から、内容を理解する際の大きな課題として、語いの不足にかかわる問題と英語のスピードにかかわる問題の２点があることが明らかになった。本分科会では、これらの課題の解決のため、語いや文法の確実な定着と並行して、知らない語があったり英語のスピードが多少速く感じられたとしても、概要や要点を把握することができるような活動を取り入れたり、身に付けた語いや文法を用いながら、文脈から推測する力や一般的な知識を積極的に活用して相手の思いや考えを理解する活動を設定することが大切であると考えた。

そこで、本研究においては、「概要や要点をとらえることができる指導と評価」について、リスニングの指導とリーディングの指導の両面から、以下の４点を工夫した実践を試みた。

（１）英語を聞くことへの抵抗感を少なくするためにキーワードをおさえる指導を段階的に取り入れる。

（２）英語を聞くことに興味・関心をもたせ抵抗感を少なくするとともに、目的をもたせて意欲的に聞かせるために写真や絵を活用した指導を取り入れる。

（３）英語の概要や要点をとらえさせるために、質問に対する答えを導き出す方法について継続した指導を行う。

（４）到達度に応じた学習の手だてを明らかにする。

## ３　具体的な方策

### 【リスニングの指導のための実践事例１】

生徒のアンケート結果によると、リスニングにおいて、「スピードが速すぎてついていけない」と感じている生徒が多く、それが苦手意識につながっている。スピードを落として生徒に聞かせることは容易ではある。しかし、日常生活における「自然な英語」からはかけ離れてしまいがちである。また、流れてくる英語をすべて日本語に直していかないと不安になる生徒が多かった。そこで、生徒が英語を聞いて理解するには、日本語を媒体とすることなく、聞いて瞬時に理解し、概要や要点をとらえる練習が必要である。日本語に頼ることなく自然なスピードによる英語を聞き、英語で理解する習慣を生徒に身に付けさせながら、概要や要点をとらえさせたい。ラジオ番組の天気予報という設定でリスニング活動を行った例を挙げる。

**＜指導のねらい＞**

(1) 自分の既得の知識を利用し、内容を予測する活動を促す。
(2) 未習語や不明瞭な部分があっても推測をして聞く態度を育成する。
(3) 聞く活動を話す活動につなげることによって目的を意識させ意欲を高める。
(4) 身近な話題となる天気予報を利用しながら、地名や天気、温度（数字）を認知させ、英文をすべて日本語に置き換えなくても意味をつかむことができることを理解させる。

**＜学習過程＞**　＊所要時間・・・１５分程度

(1) 図１の picture（地図）を見ながら、内容を予測して聞く。
(2) 図２のワークシートの表現を探しながら聞き、聞き取れたものをチェックする。
(3) 英文を聞きながら図３のワークシートの質問に対する答えを記入する。
(4) 英文を２回聞いて、図４のワークシートの下線部にあたる英語を書き取る。
（本事例は１年生なので、ある程度の日本語(ｶﾀｶﾅ等)の使用は許容した）
(5) 最後にもう一度通して聞く。

＊推測を促すために、１年生に対して、２年生の教科書による題材をリスニング教材とした。

スクリプト（NEW CROWN ENGLISH SERIES - BOOK 2 - 三省堂）

| |
|---|
| Now the weather for tomorrow. First, in Sapporo, it will be sunny and cool. The high will be 12℃. You will need a jacket. In Tokyo, it will be cloudy and windy. The high will be 18. In Nagoya, it will be cloudy, and the high will be 20.<br>In Osaka, it will be rainy but warm. Don't forget your umbrellas. The high will be 23. In Fukuoka, it will be sunny and warm. The high will be 24.<br>Thank you for listening ! |

図１

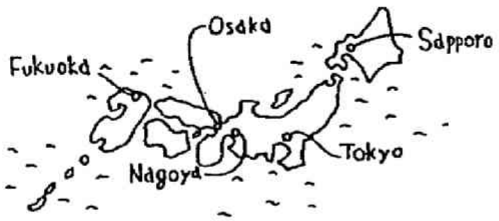



図２

| | | | |
|---|---|---|---|
| ↓ | ☐ weather | ↓ | ☐ cloudy |
| | ☐ sunny | | ☐ the high |
| | ☐ need | | ☐ rainy |
| | ☐ jacket | | ☐ umbrellas |

図３　天気予報を聞いて、明日の天気と予想最高気温を天気図に書き入れてみよう。

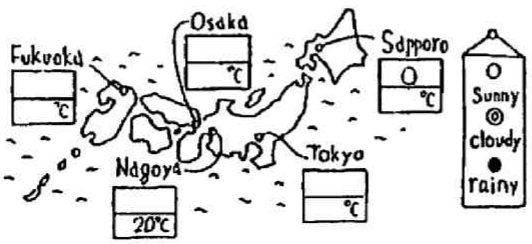



図４

1. First, in Sapporo, it will be _____ and cool.
   The high will be _____℃.
2. In Nagoya, it will be _____ , and the high will be _____ .
3. In Osaka, it _____ but warm. Don't forget _____.

**＜指導上の留意点＞**

(1) 予測や推測をしながら聞く態度を身に付けさせるために絵を効果的に提示する。

(2) 基本的な語いが身に付いていない生徒のために、適宜、図２の語を含む語いの日本語訳シートを与える。

(3) 一語一語正確に聞き取らせるために、最後にディクテーションを行わせることも可能である。聞き取る範囲は、意味的にまとまりのあるフレーズとし、スピーキングに役立たせるようにする。スクリプトの内容のレベルと生徒の理解度に応じて、フレーズを長くするなどの工夫をする。

(4) 今後さらに発展したスクリプトの内容に向けて、５Ｗ１Ｈの予測をする習慣と態度を育成したい。初期段階においては、このすべてを予測し聞き取らせることは難しいので、必要なことだけにしぼったワークシートを利用する。何が(誰が)、何を、どうしたぐらいからはじめるとよい。

**＜評価・具体的な手だて＞**

(1) 指導の過程(2)、(3)、(4)の各段階で生徒の理解度を確認する。

(2) 語いのチェックのために、図２のワークシートを使用して語句を読み上げ、意味のわかる語句にチェックさせる活動を行ってから聞かせてもよい。

(3) 要点のつかめない生徒に対しては、基本的な語いのインプットとして語句の日本語訳シートを配布し、内容を理解するための手がかりとなる単語や語句の発音と意味を確認させる。その後もう一度リスニング教材を聞かせる。ほぼ要点がつかめている生徒には、家庭学習として、Read and Look Up や Shadowing などを行わせる。

(4) 発展的な学習として、内容に関したＴ－Ｆテストを行う。また実際の天気予報をもとに放送原稿を書かせて、アナウンサー(レポーター)の役で発表させることにより、スピーキングの活動に結びつけることもできる。

〔５Ｗ１Ｈの予測のためのワークシート例〕

| ポイント | 自分で予想したこと | 聞いてわかったこと |
|---|---|---|
| いつ | | |
| 何が | | |
| どこで | | |
| 何を | | |
| どうした | | |
| どんな | | |
| 何のために | | |
| | | |

＊指導の目的や内容及び生徒の実態などによってポイントを付け加えたり、不要な部分に斜線を引いて削除して使用する。毎回行うことで、予測をして聞く習慣を身に付けさせる。

**【リスニングの指導のための実践事例２】**

**＜指導のねらい＞**

(1) 写真を提示することで語いの不足やスピードに対する抵抗感を和らげるとともに、聞く活動に対して目的意識をもたせる。

(2) 概要や要点を適切に把握することができるように、内容の軽重を判断しながら聞き取ることに慣れさせる。

**＜学習過程＞**　＊所要時間・・・１０分程度

(1) リスニングの練習をするポイントとして、下記の３点を意識する。

・Don't worry about unclear sounds.（聞き取れない音を気にしない。）

・Pay attention to stressed words.　（強く読まれた言葉に注意を向ける。）

・Focus on key words and key facts.（キーワードや重要な事柄に焦点をしぼって考える。）

（上記の３点は Rost&Uruno の１２の Listening Strategies より抜粋した。）

(2) 示された写真を見て、ニュースの内容を予測する。

(3) 概要や要点をとらえるための質問を確認した後、ニュースを聞く。(この後、ニュース内容の感想を述べ合う活動を加えれば、より実践的なコミュニケーション活動につなげることができる。)

(4) ニュース原稿を受け取り、内容理解に必要な語句・文を練習し、語いを定着する。

(5) 自己評価カードを活用し、縦断的な個人内評価を継続することで、自らの課題を意識させる。

(ニュース原稿)　**ASIAN GAMES OPEN**

Japanese athletes march during the opening ceremony of the 14th Asian Games at the Busan Asiad Main Stadium on Sept. 29. North Korean athlete Kye Sun-hui, a judo gold medalist at the Atlanta Olympics ( left ), together with South Korea's Ha Hyung-joo, a Los Angeles Olympics judo gold medalist, light the flame at the ceremony. Forty-four countries and regions are taking part in the 16-day sporting event, the largest number in the game's history.

(発問)　**QUESTIONS**

① Who is that woman?　② What is she doing?

③ How many countries are taking part in the Asian Games?

( ④ What do you think of the article? )

**<指導上の留意点>**

(1) ニュースはナチュラルスピードで伝える。

(2) 質問は、写真を見て即答できるものではなく、聞き取って答えられるものになるよう工夫する。

(3) 授業の開始から10分程度で終了できる活動にして、継続して行う。

**<評価・具体的な手だて>**

[自己評価カードの例]

| | |
|---|---|
| 1. Don't worry about unclear sounds. | A B C |
| 2. Pay attention to stressed words. | A B C |
| 3. Focus on key words and key facts. | A B C |
| 4. Total Correct | ／3 |
| [Note] | |

＊ Note の欄には、自分の課題を記入させる。

http://www.manythings.org/pp/

http://www.manythings.org

http://eleaston.com/pronunciation/

(1) C評価の多かった生徒には、家庭学習として、学習過程(4)で扱った重要語句・文などの音読練習に取り組ませる。

(2) B評価の多かった生徒には、家庭学習として書き取り練習などに取り組ませる。

(3) 左下に示したような音声的特徴を身に付けることができる website などを紹介して、リスニングへの意欲・関心を高め、理解の能力の向上につなげる。自分のペースで間違ったところを繰り返し練習しながら次の段階に進むことができるため効果が期待できる。

**【リーディングの指導のための実践事例】**

**＜指導のねらい＞**

アンケートの中で、英文を読むときに困っていることとして多く挙げられていたのは、単語の意味や読み方がわからないということである。おそらく語いの不足から先に読み進めることを途中であきらめてしまった生徒もいたのではないかと推察できる。また、最初から一字一句の意味がわからないと理解したことにならないと考えているため、少しでも未習語に出会ったら、その英文全体が難しいと感じてしまっている生徒もいたと考えられる。そこで普段の授業において語いを定着させる指導を充実させる一方で、語いの不足によるリーディングに対する苦手意識を払拭するために、以下の点を中心に指導していく。

(1) 英文の概要や要点をとらえさせ、目的をもって読むことの重要性や内容を推測することの重要性を指導して、意欲的に読んでいく姿勢を身に付けさせる。

(2) 一語一語の意味にとらわれずに、訳すという観念をもたないで読み進めたり、Skimming や Scanning といった活動を取り入れて、書き手の意向などを理解できるようにする。

**＜学習過程＞** ＊所要時間・・・１０分～１５分程度

(1) 教師は読む活動の前に内容に関する質問を口頭で行う。(読む目的に応じた質問をする。)

・概要や要点を把握するために読む場合 → Skimming

・必要な情報を探すために読む場合 → Scanning

教材例：New Crown English Series 2　LESSON 6　3　Speech --- 'My Dream'

Second, some parents need help. For example, my parents had a lot of things to do when I was a child. When I become a nursery school teacher, I can help people like them.So, nursery school teachers are very important for society. They do many things to help children and their parents. I want to help you and your children some day.Thank you.

Scanning の場合の質問例：

1．Why does Ken want to be a nursery school teacher?
　As you know, he likes children.　What is the second reason?

2．What does Ken want to do some day?

(2) 質問に答える際は、上記の２つの質問に答えることが目標であることを認識し、わからない単語や修飾語にあまりこだわらないようにする。

(3) 読む過程で意味のわからない単語や語句などにアンダーラインを引き、理解できる表現をもとに推測しながら意味をつかむ。

(4) その後、どの程度、概要や要点をとらえることができたかをチェックするために、ワークシートに答えを書く。

(5) 教師は生徒の答えを確認し、理解度に応じて概要や要点をとらえる方法を示すことによって具体的な手だてを示す。

**＜指導上の留意点＞**

リーディングにおいて概要や要点をとらえさせる指導を行う際、留意すべき点は、生徒を理解に導くための教師側の発問である。生徒がリーディングの目的を明確に把握していること、さらに、できるだけ日本語を介さずに理解を導くため、英問英答の形で行い、日本語の使用は最小限にすることが望ましいと考える。その際、特に次の点に留意したい。

(1) 必ずテキスト（本文）を読まねば答えられない発問をすること。
(2) ワンパターンにならないこと（二者択一の質問から５Ｗ１Ｈの質問へ）。
(3) 文章の特定の部分に偏らないこと。
(4) テキストのレベルの英語より難しい英語（表現）にならないこと。

**＜評価・具体的な手だて＞**

概要や要点をつかむことができない生徒は、知らない語の意味を推測して読み進める経験が少ないと考えられる。概要や要点をとらえるためには、わからない語の所で長く立ち止まらないで、読み進めていくうちに意味が明らかになる場合も多いことや、推測した意味が適切かどうかを知るためには、読み進めることが必要であることを指導していく。

生徒の答えを確認し、理解度をチエックした結果、生徒にとってわからない単語で多かったのは（parents, like, important, society, some day）などであった。そこで以下のような質問や説明をして、生徒の意識を概要や要点に向けさせる。

(1) 前後の関係から、単語の意味がわからなくても、推測できることを説明する。
- Second, some <u>parents</u> need help.

  質問例：保育士の助けを必要としているのは誰が考えられますか。
  （この質問をすることによって parents の意味を推測させる。）

(2) 十分な語いがなくても、一般知識や常識を活用して、意味が推測できることを説明する。
- So, nursery school teachers are very <u>important</u> for society.

  指導例：保育士の仕事の内容を具体的に考えさせる。仕事内容のイメージをつかんだ後、保育士は「とても何か」を考えさせて、important の意味を推測させる。

(3) 修飾語句がわからなくとも、概要や要点は読みとれることを説明する。
- I can help people <u>like</u> them.

  説明例： I can help people.　だけでも誰を助けることができるかわかります。
- So, nursery school teachers are very important for <u>society</u>.

  説明例：保育士が大切なものであることは理解できると思います。society の意味がわからなくても、気にしないで読み進めてみましょう。
- I want to help you and your children <u>some day</u>.

  説明例：Ken にこのスピーチを聞いてる人とその人の子供を助けたいという願いがあることがわかれば some day という語句は問題にはなりません。

## 4　研究の成果と課題

第２分科会では、理解の能力を高める指導とその評価の工夫について、リスニングの指導とリーディングの指導の両面から研究を進めてきた。

### （１）リスニングの指導における研究の成果

① リスニング活動において、自然なスピードについていけない生徒に対してキーワードをつかむ練習を継続した結果、日本語に頼らずに概要や要点をとらえることができるようになってきた。

② 英文を繰り返し聞き取らせることにより、自然なスピードに対する抵抗感が弱まり、時間をかけずに概要や要点を理解できる生徒が増えてきた。

③ 写真や絵などを事前に提示することが、語い力が不足している生徒にとって、概要や要点をとらえる上でのヒントとなり、あきらめずに最後まで聞き取ろうとする姿勢が見られるようになった。

④ 段階を踏まえた指導法を取り入れたり、理解の手だてとなる教材を提示した結果、概要や要点のとらえ方を少しずつ理解できるようになった。

⑤ 自己評価表を活用することによって、自らの課題を意識させて次回の活動に取り組ませることができた。又、教師の側においても、生徒のつまずきを明確にすることができ、個々の課題に対する具体的な手だてを示して理解の能力を高めることができた。

### （２）リスニングの指導における研究の課題

① 教材は、短時間で継続的に指導できるものを心がけて作成してきた。しかし、単元の内容やねらいによっては予定していた時間では終わらないこともあった。普段の授業に継続的に取り入れていくことが可能な内容を吟味するとともに、生徒が飽きずに興味をもって取り組める教材を工夫することが必要である。

② 概要や要点をとらえさせる活動を継続的に行うことは有効であるが、基本が定着していない生徒の意欲を持続させるためには日頃の授業における単語・文法・発音の指導を充実させていく必要がある。

### （３）リーディングの指導における研究の成果

① Skimming や Scanning の活動を取り入れて指導した結果、文脈から意味を推測する力や一般的知識を活用しながら、少しずつ概要や要点をとらえることができるようになった。

② 概要や要点をとらえられなかった生徒に対し、とらえ方のポイントを継続的に説明することにより、理解力を高めることができた。

### （４）リーディングの指導における研究の課題

① 教科書に掲載された英文を教材にした場合は、予習してきた生徒にとっては概要や要点をとらえる練習として問題が残る。今後は教科書に掲載されていない教材を新たに作成し工夫していく必要がある。

② 概要や要点をとらえる学習において、未習語を推測しながら読み進めていく指導は効果的であるが、生徒の意欲を持続させるためには、日頃の授業において単語や文法の定着に向けて一層充実した指導を図っていくことが重要である。

# Ⅴ　まとめと今後の課題

**＜まとめ＞**

第１分科会では、表現の能力を高める指導と評価の工夫について研究した。学習アンケートから、生徒たちは英語の学習を通して身に付けた力で、「外国の人々と話したい」「外国旅行で役立てたい」と考え、授業におけるペアワークやインタビューゲームなどに楽しみながら積極的に参加していることがわかった。反面、それらの目的が生徒に理解されず、楽しいけれども、役に立っているという実感がもてずに、「表現の能力」を育成する上での課題となっていた。そこで、ペアワークやインタビューゲームを新出文型や表現のドリルととらえ、そこで学んだ文型や表現を実際に活用させて評価するスキット・テストやスピーキング・テストを工夫して実施した。あわせて、ペアワークにおける「自己評価カード」の内容を自分の課題が明確にでき、自分の進歩が実感できるような内容に改善したり、コメントなどに良かった点や改善すべき点を具体的に記入し評価をフィードバックすることによって、生徒の意欲を高め「表現の能力」を高めることができた。

第２分科会では、理解の能力を高める指導と評価の工夫について研究をした。アンケートから、「読むこと」「聞くこと」を楽しくないと感じている理由として、意味や内容がわからないことが共通して挙げられていた。また、内容を理解する際に困難な点を調べたところ、大きく分けて、語いの不足と英語のスピードに関する問題があることがわかった。そこで、「リスニング」の指導では、キーワードをおさえる指導を段階的に行ったり、内容を予測させる指導や絵や写真を活用した指導を継続的に行うことによって、語い不足やスピードに対する抵抗感を和らげたり、目的意識をもって取り組ませることができた。その結果、部分的にはわからなくてもあきらめずに聞き取ろうとしたり、概要や要点を少しずつとらえることができるようになり、「理解の能力」が向上していった。また、「リーディング」の指導では、文脈から推測する力や一般的知識を活用させながら、Skimming や Scanning を行わせるとともに、全体の理解度に応じて、質問に対する答えを導き出す方法を具体的に示していくことによって、少しずつ概要や要点をとらえることができるようになった。

**＜今後の課題＞**

今回の研究では、身に付けた語いや文法を活用させたり、文脈から推測する力や一般的知識を活用させて実際にコミュニケーションを行わせることに焦点を当てた。しかし、研究を進めていく中で、単語・文法・発音などの知識が十分に身に付いていない生徒の場合、正しい語順で表現できなかったり、細かなニュアンスを表現することが困難であるなどの課題もでてきた。また、概要や要点をとらえさせる場合に時間がかかってしまったり、手だてなしには理解しようとする意欲を持続させることが難しいという課題も残った。今後は、実際に英語を使ってコミュニケーションをする活動を重視する一方、単語・文法・発音などの知識をいかにして効果的に身に付けさせるかということについても研究を進める必要がある。また、実際の生活場面においては、英語の各技能が関連し合って使われていることを踏まえ、「リスニング」と「リーディング」及び「スピーキング」と「ライティング」の組み合わせを工夫し、それぞれの活動に目的をもたせ、意欲を高めていく指導の在り方についても研究を深めていく必要がある。